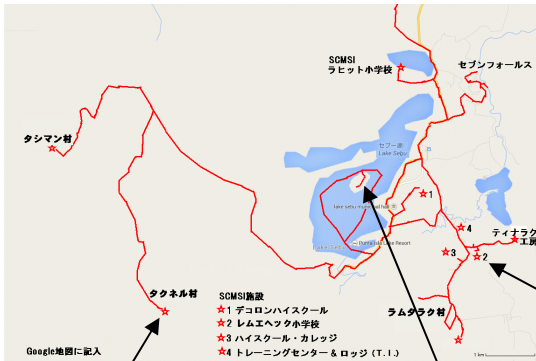
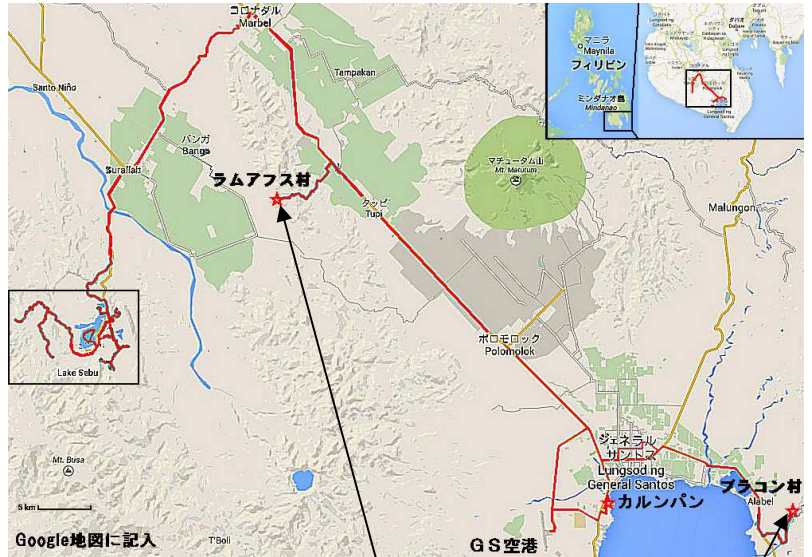


スタディーツアー日程

- 11/26 羽田->マニラ->マニラ宿泊
- 11/27 GS 空港->ラムアス小学校->カルンバン宿泊
- 11/28 ブラコン村->SCMSI TI 宿泊
- 11/29 タシマン村->タクネル村->TI 宿泊
- 11/30 レイクセブの島訪問->TI 宿泊
- 12/1 SCMSI の学校訪問->TI 宿泊
- 12/2 ラムダラク村->カルンバン宿泊
- 12/3 GS 空港->マニラ->成田



11/29
タクネル村での植樹



11/30 レイクセブの島での
ビーズ細工製作



12/1 レムエホック小学校
生徒の出迎えの生徒



11/27
ラムアス村の水場



11/28
ブラコン村での巡回医療

スタディーツアーに参加して

高山好主

ミンダナオ島のジェネラルサントス空港に着いてまず感じたことは日差しの強さです。空港に着陸するとき天候が悪くてやり直しをするほどだったのに雨雲はどこかに行ってしまう赤道近くの直射日光が照っていました。

今回のツアーは、訪問先も支援事業の内容もいろいろで、すべてに触れるのは難しいので、その中で、特に印象に残ったこと、気になった点として、ラムアス村における水場の問題とブラコン村での医療の問題について書いてみます。

一つ目、ラムアス村では以前、ラムポンプで水を 40~50m 汲み上げていたが上手く機能しなくなり、今はやめてしまったとの事です。水場はコンクリートの水槽に接続された直径 2~3cm のパイプから流れ出ているのみです。水量が少なくてラムポンプが作動するのに適当かどうか考えてしまいます。水量が減る乾季を考えればなおさらです。我々が今後も支援するのであれば雨期の時、乾季の時、年による変化などを見極め、さらに現地の人が管理できるかどうかよく検討して行う必要があると思いました。

二つ目は、ブラコン村での医療支援事業についてです。PIHS のナフサさん、女医のジェブジェブさんと同行してヘルス組合の活動を見ました。着いてすぐに巡回診療の場所を設定しましたが、はじめは誰も来なくて、女医さんは手持無沙汰の感じでした。大人は給食の準備で忙しく、子どもたちも順番待ちの列に並んでいます。給食が終わり、一休みした所で、部落の幹部の話と HANDS の紹介などがありました。その後、問診や血圧測定が終わったあと、女医さんの診察を受けていました。これを見て感じたことは、医療も重要ではあるが貧しい地区では「食べることが一番」。飢えを克服した後に高度の医療が必要になる。日本では「医食同源」という言葉があるが、良いものを適量食べる(食べる事が出来る)事が病気にならず健康に暮らせることと思いました。

今回のスタディーツアーでは、タクネル村ティヌオス地区のアグロフォレストリーのモニターという任務もあったので、事業の進捗状況をチェックしながら、苗木の移植体験をする(写真)など、初めてのミンダナオ訪問を楽しみました。

